

## 住民研修会：「住民・第1分科会」の概要票

テ ー マ	住民団体の活動や組織などの活性化をどう進めるか
趣 旨 と 進 め 方	少子高齢化が進行する中で、保存会等の住民活動及びボランティア活動の担い手が枯渇しようとしている。また、町並み保存運動を次世代にどう継承するか。マンネリ化しつつある保存会活動をどう活性化していくかなどの課題にむけて、先進事例の報告を受けて意見交換を行う。

日時	会場	講師等の氏名	講師等の所属	プロフィール
5 月 1 7 日 (木) 1 4 : 1 0 5 1 6 : 2 0	市 民 会 館  1 F  創 作 ・ 練 習 室 B	コーディネータ <small>にしやま のりあき</small> 西山徳明	北海道大学 観光学高等研究セ ンター教授	1961年(S36年)福岡市生まれ。京都大学工学研究科大学院修了。博士(工学)。専門は、建築・都市計画、文化遺産マネジメント、ツーリズム。自治体や文化庁の文化財関係の審議委員等を務めながら、世界遺産を含む国内外の遺産の保護と観光開発の持続可能な関係づくりについて研究中。
		報告者等の氏名(ふりがな)	報告者等の所属・役職	プロフィール
		パネラー <small>ふじわら よしのり</small> 藤原 義則	財団法人 妻籠を愛 する会 事務局長  (南木曾町妻籠宿)	昭和64年～平成2年統制委員長 平成18年理事平成20年常務理事現在に至る。妻籠観光協会事務局長を兼ねる。(55歳IHIターボ退職、61歳南木曾商工会事務局長退職、)
		パネラー <small>みやもと てつお</small> 宮本 哲男	若狭熊川宿まちづ くり特別委員会 空 き家対策部長  (若狭町熊川宿)	1953年(S28年)若狭町熊川生まれ。地元中学校を卒業後、関西電力に入社。主にネットワーク技術関係の仕事に従事し、彦根営業所長を最後に平成22年に退職。地元の企業に勤めながら、熊川区長代理、区長を歴任し、現在に至る。自主防災体制の強化の観点から経験を活かし活動を進めてきた。
		パネラー <small>まるやま のぼる</small> 丸山 昇	八日市護国地区 町並保存会 会長  (内子町八日市護国)	平成14年、長年務めた食品雑貨卸売会社を退職。その後、町並保存会の役員に選任され活動開始。全国の先進地に刺激を受け、内子も負けてはられないと奮起。平成22年、会長に就任。現在に至る。
		パネラー <small>たかはし こうたろう</small> 高橋康太郎	八女ふるさと塾 事務局  (八女市八女福島)	平成4年家業(酒小売業)を継ぐために帰郷。その年に発足した八女ふるさと塾に参加。平成20年に始まった「八女福島白壁ギャラリー」の事務局を担当。23年に結成された地元商店の集まり「まちあんない」にも参加。町並み保存を側面から支えられるよう、地元の仲間と現在活動中。

西 山 徳 明	日本におけるいわゆる「町並み保存」運動は、1960年代末からいくつかの地域で動きが始まり、70～80年代に妻籠をリーダーとして全国的に展開した。自然保護の運動と同様、この運動も町並みを文化財として保護する高邁で原理主義的な運動であるかのように思われがちだが、実は素性が異なる。この運動を語るに欠かせない初期のリーダーである妻籠の小林俊彦も内子の岡田文淑も、保存運動立ち上げ当時は観光担当の役場職員であった。彼らは、特に示し合わせたわけではなく、過疎が激化する郷里が生き残るには、残された我が町最後の資源である「歴史的町並み」を保存し観光に活用するしかないという発想に、ほぼ同時期に取り憑かれたのである。小林氏が、保存の「理」とその活用による経済的な「利」を同時に説いて住民を説得した話は有名である。翻ってそれより40年が経過した現在、町並み保存運動を次世代につなげていくインセンティブとは何であろうか？
------------------	---

コメント・意見	藤原 義則	集落保存は、行政と住民と技術者(学者)の三位一体で進めないとうまくいかない。きちんと議論して方向性を見通すことが重要。妻籠宿はこの仕組みがうまく機能して広大な面積を含め保存と修景に成功した。保存と観光のバランスも重要と思われる。地域の歴史、文化(伝統芸能、行事、風習等)も伝承して守り伝えることが住民の一体感の醸成と絆を深める。次の世代にいかに伝えるかがポイントとなる。現在行っている事業も継続出来る仕組みを早く確立して続けることが重要となる。妻籠の座右の銘「初心忘るべからず」は妻籠が集落保存で脚光を浴びる前の事を現している。行事においても「ぶれない、継続、評価に耐える工夫」が肝心と思われる。それがリピーターを引きつける因子でもあり、観光地としては重要。洞察、過去(歴史)に学び、現在を見据え、将来を見通す事が重要と思われる。
	宮本 哲男	熊川宿は、平成8年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。重伝建選定以降、区が主体となった「いっぶく時代村」を始めとする、大きなイベントなどにも積極的に取り組んできましたが、高齢化も進んできたことから、町並みと暮らしを災害から守るため、町と協働で「防災まちづくり計画」を策定し、次年度に「熊川区自主防災会」を設立し防災関係のイベントも実施してきました。昨年は、無線連動型の火災報知機を使用した近隣火災通報システムを、空き家も含めた集落全体に構築しました。これらの取り組みを通じての率直な感想として、今までのまちづくりで培ったまとまりの力が非常に大きいと感じています。その機運は知らず知らずの間に培われているので、出来るだけ若い方も参画してもらえらる組織体や雰囲気を作り、課題を提供していく必要があると考えています。
	丸山 昇	私たちの保存地区でも、高齢化が進み空き家が増えつつあります。また、若い人は仕事や子育てで忙しく、なかなか保存運動に参加してもらえないのが現状です。今の社会は、個人主義の考えが広まる中で、地域のこと、まちのことに関心を持ち、住民みんなのために活動することが地域住民としての責務だと考える人が減っているように思えます。そんな中で、私たちは住民に呼びかけ、毎月第1日曜日にみんなで約700mの通りを清掃し保存意識を高めています。普段から、老若男女に興味を持ってもらうような参加の仕方を考え、ちょっとだけ無理をして参加してもらい、終わった後には面白かった、楽しかった、次もまた参加してみたいと思わせるような工夫をいつも考えておくことが大事だと思っています。
	高橋 康太郎	八女福島で町並み保存の取り組みが始まって20年。重伝建地区に選定されて10年。町家の修理も少しずつ進み、町家での暮らしに惹かれ、空き家だった町家に新しく移り住む人たちも増えてきました。その一方で、町並み保存の必要性は、住民や行政全体で共有化がまだまだ出来ていません。そこで、観光という切り口で、老舗も新しく移り住んできた若い人達も一緒になって取り組めるような住民主導のイベントが始まり、それを受けて新しい商店の集まりも立ち上がり、それを行政がサポートするような仕組みが出来つつあります。これは私たちにとっても地域の魅力を再確認する良い機会になっています。ただ、痛みの激しい町家(特に空き家)は増えつつあり、予断を許さない状況で、これを解決するための方策が急務です。

当日スケジュール	14:00～	開場・受付
	～14:10	参加者へ質問用紙配布
	14:10～14:12	開会あいさつ : 司会(八女実行委員会)
	14:12～14:22	コーディネーターのガイダンス(パネラーの紹介含む)
	14:22～15:22	「事例報告」(1名15分程度)
	15:22～15:35	休憩(参加者から質問用紙の回収)
	15:35～16:00	コーディネーター・事例報告者による質問への応答及び参加者討論
	16:00～16:10	各パネラーの総括的発言
	16:10～16:20	コーディネーターのまとめ
16:20	閉会あいさつ	